

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	壱番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和 元 年 9 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1年 10月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方々一人一人に個性があり、それぞれに対して対応やニーズも違って行く中で職員は入居者の方々全員に同じ対応を行うのではなく一人一人に合わせた対応ができるよう、情報収集につとめ入居者の方々ひとりひとりにあったお手伝いをさせていただいています。そして入居者の方々が常に笑顔で過ごすことができるように各職員力を入れております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>仙台地下鉄富沢駅から南西に徒歩12分程の所に「やすらぎホーム富沢」がある。ホーム南の道を隔てて運営本体である仙台富沢病院がある。すぐ向かいには、餅つきや納涼会に招待されて交流する保育園がある。ホームの夏祭りには、町内会から TENT を借りたり、社会福祉協議会を通じてボランティアの協力がある。その折りは入居者、家族とともに、近隣住民を焼きそばなどの屋台や演芸でもてなした。職員は「認知症である前に私たちの大先輩である」ことを意識し、「ありがとう」の言葉と心で笑顔のケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標を一年ごとにユニットで考え理念を実行できるようにしている。半年ごとに一度目標を振り返って出来ている点、できていない点を皆で考えその後につなげるようにしている	ホーム理念に「家庭的」や「自分らしさ」など4項目を掲げ、どんなケアをすべきか考える基としている。ユニット目標には、「日々発見」や「一歩下がって見る」などがある。「入居者優先に関わる」など、各職員の目標もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、地域行事にスタッフ、利用者の方々と共に参加させていただいている。また、ホームでの夏祭りなどの際には回覧板で回していただいたり、スタッフが近隣の方々にご挨拶させていただくなど交流するようにしている	ホームの夏祭りに町内会からテントを借りたり、地区で開催されるサロンに入居者と参加するなど、出来るだけ交流の機会を持つよう努力している。社会科学習で来訪した小学生に対応した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームないの活動を広報したので知っていただいたり、玄関先での園芸や野菜作りを行って往來の方に活動が見えるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見を全体会議で話し合い、サービスの向上につなげられるようにしている	年1回、メンバーからホームの良い点、悪い点を聴取している。意見は、アクティビティを工夫できないかを考えたり、ホーム内の整頓や出来るだけ散歩に出る、暗い照明を順次明るくするなど、実践へのきっかけとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点などがあるときは市に連絡しご指導していただいたりしている	地域ケア会議に参加し、ホームを紹介した。依頼を受けて、他地区の町内会組織立ち上げのメンバーになった。災害発生時にFAXで避難指示があった。感染症や権利擁護などの研修会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の委員会を設けており、勉強会を開くことでスタッフの身体拘束防止の意識と意識を高めている	身体拘束・虐待防止委員会では、年間計画を作成し、「なぜ虐待してしまうのか」などの勉強会をすることになっている。「これって虐待？」のテキストを用いた研修の後、理解度テストを実施した。勉強会で得たことが、実践に活かされるよう期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、勉強会を開きどのようなことが虐待に当たるのかスタッフ全体の意識を高められるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護等に関する研修に参加し、必要に応じて制度を活用に支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関し不明な点があれば傾聴し疑問に答えられるようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時にスタッフから声をかけさせていただき意見をいただけるようにしている。いただいたご意見は会議などで話し合い今後のケアや運営に活かせるようにしている	「髪を切って」や「誕生日に、これを着せて」などに対し、要望に合わせた対応をしている。編み物が好きだったことを聞き、アクティビティに取り入れた。家族自身の健康不安などを聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議などで職員が意見をいうことのできる場を設け反映できるようにしている	会議ではケアに関する意見が多い。事故防止や環境整備、行事広報など4つの委員会があり、各部署で出された職員の意見や提案で運営している。要望に合わせて、車いすの移乗や入浴介助などの勉強会をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を行いひとりひとりの目標を立てその達成度を見極めつつ評価できるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	わからないことや知りたいことをアンケートし、勉強会を開くことで知識や技術の向上を促している。また、各自委員会に所属し自ら勉強しそれを周知できるように進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通じて同業者と情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時入居者の方々が不安に思っていること、困っていることをご家族様からも聴取し出来るだけ不安を感じつつ安心して過ごして頂けるように支援を行いコミュニケーションを図るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていることや困っていることに対し傾聴を行いながら不安を取り除きご家族様が安心していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時点で現状を把握しグループホームの他にもサービスを紹介させていただきその時の状況に合わせたサービスも視野に入れつつ支援させていただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が何を望まれているのかを理解し、提供されるだけの一方的な関係にはせずお互いに助け合いながら生活しているということを実感していただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が生活するうえでご家族様からの話を聞くことや連絡を密にとり状況をその都度報告することでご家族様と職員と一緒にご本人様を支える関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間などは設定しておらずいつでも来ていただけるように支援している。ご本人様の馴染みの環境を大切にしてお保つてできるように慣れ親しんだ場所への散歩や美容室に出かけるなど支援している	自宅周辺の散歩や馴染みの美容院へ送迎したり、馴染みのデパートに地下鉄で同行するなど、入居前の馴染みを支援している。生活歴を参考にして、朝食のパンや日舞、歌などケアプランに反映し継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や個性を把握、考慮し、スタッフが間に入り関係を保つことやホーム全体を通してコミュニケーションを図るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもいつでも相談に応じることが出来ることを退去される際にご説明させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの希望や意向を聴取する他にも日常生活での会話や反応などからニーズを探りケアプランに行かせるようにしている。ご家族様にも面会時などにお話しを聞くようにしている	出掛けるのを嫌がったり、粗暴になったり、外に出ようとするなどが見られた際には、行動の要因を探り、入居者の不安を取り除く対応で落ち着くようになった。家事の得意な入居者に、洗濯物の整理をしてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の週刊や趣味を聴取し、ほ一むにおいても可能な限り続けていただけるように支援している。馴染みの場所などがあれば外出などにお誘いし地域とのつながりも保てるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に言動を細かく記載し申し送りの際にも伝えられる様にしている。ユニット会議においても個人検討を行い情報の共有を行なっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からご意見を聴取するとともに、日常の関わりからもニーズを探りケアプランに反映できるようにしている	3ヵ月ごとにモニタリングし介護計画書を作成をしている。ユニット内における入居者について、各職員がアセスメントとモニタリングをしている。楽しく生活してもらうことを、事業所として目標設定ポイントにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践した結果をケース記録に記入するようにしている。また申し送りでも伝えるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前から利用されており、入居後も利用していきたいという方に対してはホームの枠にとらわれず出来るだけ対応するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるレストランやスーパーを積極的に利用し、外食や買い物を楽しむことができる場面をできるだけ作るようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様と相談しつつご希望されている医療機関を利用していただけるようにしている。また、状態の変化に合わせて往診などに対応して頂けるような医療機関を紹介したりしている	「便通は薬だけに頼らず」など医師の助言を、「受診報告書」に記録し共有している。訪問歯科による定期健診を全員が受けている。意識や呼吸などに変化が見られた際は、管理者が対応を指示する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも気づいた点は看護師に報告する様にしている。状態に合わせて受診につなげたり、医療機関に問い合わせるなど対応できるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されてからもご家族様や医療機関とこまめに連絡を取り、状況の把握に努め、早期退院につなげることができるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化に伴うターミナルケアについてご説明させていただいているが、状況の変化に合わせてその都度ご説明させていただいている。最終的に、ご家族様やご本人様が望まれている方向性になるよう支援させていただいている	家族の意向に沿って看取りを行っている。職員は「ターミナル期を支えるケアの実際」をテーマに研修し、「こんな時はこんな工夫を」「自宅ではない在宅」「主役は誰か」など学んでいる。看取り後の感想に、「生きることを支えるチームだと思う」と述べていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のフローチャートや連絡網を用いて対応できるようにしている。応急処置に関しても看護師に指導していただきながら対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に1回地域の方を含めた避難訓練を行っている。それ以外にも2ヶ月に1回は火災を想定した避難訓練を行っている。	消防署員から「何のための行動かを考えて」などの講話があった。年に1回、地域住民が参加し、避難後の見守りをしている。職員によって訓練への認識が異なると感じており、今後の取り組み課題と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重する基本的な態度を忘れず、その日の状態気持ちに合わせた声かけ対応を心がけている	一人ひとりの性格や周辺症状を理解し、その人に合わせたケアをしている。得意なことを生活に活かして、やり甲斐を感じてもらっている。「ありがとう」の声掛けを統一し、ケアの信念にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方々の意思を表出していただけるよう質問の方法を工夫したり、話題を振りつつご本人様の表情の変化を確認しながら事後決定につなげている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の方々が思い思いのままに生活していただけるように職員はサポートさせていただけるだけ希望に添えるよに支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を切るなどもできるだけご本人様のご希望に添えるよう支援している。また、着ていただく服などもできるだけ望まれるようなものを着ていただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方々の栄養、食べやすさ、好みを考え食事の準備を行なっている。盛りつけや後片付け、下ごしらえなど職員とともに行っていただき一緒に生活を送っているという生活感を共有できるようにしている	各ユニット毎に職員が献立作成をしている。法人栄養士に栄養バランスなどについて「問題ない」との助言をもらっている。医師の指示や嗜好に合わせて代替食品の工夫がある。旬物や行事食、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量はひとりひとりチェック表を作成し確認している。その際摂取量が少ない場合などは代替になるものを検討しながら提供し摂取量を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりの状態に合わせ口腔ケアの声かけや介助を毎食後行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ排泄パターンを把握することで事前に声がけし、失敗を少なくすることができるよう対応している	失敗した時は周囲に気付かれないように誘導したり、汚れたものは速やかに片づけるなど自尊心に配慮している。ズボンを下げるなど自分で出来ることはしてもらう。リハパンが汚れなくなったので、布パンツにした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し排便が滞ることのないように乳製品や水分の提供、散歩の声がけ等を行なっている。薬以外での改善を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めず、就寝前に入りたい方や、夕食後はすぐに休みたい方には日中にお声がけさせていただいたり職員の都合で決めるのではなくご本人様のご希望に添えるように支援している	週に2～3回入浴している。「今入りたい」や「熱めの湯」「肩まで入りたい」など、それぞれの希望に合わせている。ユニットによって電気ストーブやFF式ストーブなどの暖房は、職員が選択している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を妨害することのないように巡視を行い、室温、光量などに注意し好みに合わせて休むことができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受信表酷暑に処方内容を記入しお薬の説明書もケース記録にファイリングいつでも目を通せるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の聴取や家族様の話などから趣味や嗜好を探り現在出来ないことでも介入することでできることがあれば提供するようになっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど外でと出ていただく機会を設けている。また、本人様のなじみの場所を聴取してその場所に出かけることができるよう支援している	行事計画の花見や七夕、紅葉狩りは全員で出掛けている。買い物や外食は、希望者を募って少人数で出掛ける。歩行が不自由な人は、車窓から景色を楽しむなど、戸外へ出る人に偏りがないように配慮している。必要に応じて医師の助言をもらう人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、お金をもっていないと心配される方もおられるためお財布を持っていただくことで安心していただける様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時電話や手紙を送るなど支援させていただいている。耳が遠い方に関してはご本人に変わり職員が要件を伝えさせていただいたりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やろうかに観葉植物を置いたり、写真を貼ったりしている。また、ホールでは天窗より光を取り入れ柔らかい空間を作り出している。入居者の方々の状態に合わせて室温、湿度管理をしております心地よい空間を作っている	吉番館に向かい合って、弐番館と参番館が棟続きになっている。2つの棟に挟まれた駐車場では、敬老会や夏祭りを楽しんでいる。屋内に入るとホールの天井は高く、天窗が室内を明るくしている。色画用紙で作ったハロウィンや紅葉が壁を賑やかにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳席を好まれる方、ソファを好まれる方などその方が好きな場所で過ごしていただけるよう空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族様にもご協力を得ながら馴染みのものが多いようにしている。なじみのものが少ない方に関しても写真を飾ってみたりご本人様がお気に入りのぬいぐるみなどを配置し居心地の良い空間を提供できるよう工夫している	筆筒とベッド、エアコンはホームの備え付けである。明るい花柄のクロスを掛けたテーブルや壁に貼った100点の計算プリントが、その入居者らしさを思わせる。夜間は小まめに巡回し、物音などに注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の場所には何がどこにあるのかわかるように表示し、行きたいとき、使いたいときすぐに行動に移せるように工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢 ユニット名 弐番館		
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1 年 10 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様のADL状態に違いがある為個々にあった生活支援の提供やお好きなことをしていただき、笑顔で元気に過ごして頂けるように支援しております。また、スタッフと一緒に外出や散歩、外気浴などを行い季節感を感じて頂けるよう努めております</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>仙台地下鉄富沢駅から南西に徒歩12分程の所に「やすらぎホーム富沢」がある。ホーム南の道を隔てて運営本体である仙台富沢病院がある。すぐ向かいには、餅つきや納涼会に招待されて交流する保育園がある。ホームの夏祭りには、町内会から TENT を借りたり、社会福祉協議会を通じてボランティアの協力がある。その折りは入居者、家族とともに、近隣住民を焼きそばなどの屋台や演芸でもてなした。職員は「認知症である前に私たちの大先輩である」ことを意識し、「ありがとう」の言葉と心で笑顔のケアに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 貳番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎホーム富沢で掲げている理念に対し、目標を一年に一度理念を達成することが出来るように話し合い、お互いの意見を出し合いながら立案している。	ホーム理念に「家庭的」や「自分らしさ」など4項目を掲げ、どんなケアをすべきか考える基としている。ユニット目標には、「日々発見」や「一歩下がって見る」などがある。「入居者優先に関わる」など、各職員の目標もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の行事に積極的に参加させていただいている。また、お向かいの保育園とも行き来させていただき交流をさせていただいている	ホームの夏祭りに町内会からテントを借りたり、地区で開催されるサロンに入居者と参加するなど、出来るだけ交流の機会を持つよう努力している。社会科学習で来訪した小学生に対応した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも理解して頂けるよう、町内に広報誌を回覧して頂き、玄関先に園芸や野菜を作る事で入居者の方々の顔が見えるような活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者に年に一回程度、ホームの良い点や悪い点をざっくばらんに出して頂きホームでの今後の運営につながるようにしている	年1回、メンバーからホームの良い点、悪い点を聴取している。意見は、アクティビティを工夫できないかを考えたり、ホーム内の整頓や出来るだけ散歩に出る、暗い照明を順次明るくするなど、実践へのきっかけとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事は市町村に確認を取るようにしている。又、広報誌を仙台市や区役所に送付している	地域ケア会議に参加し、ホームを紹介した。依頼を受けて、他地区の町内会組織立ち上げのメンバーになった。災害発生時にFAXで避難指示があった。感染症や権利擁護などの研修会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内に身体拘束委員会を設けており、月に一回各ユニットから集まり、自分たちが行っているケアが身体拘束に当たらないか見直しを行っている。また、委員会内で勉強会に参加し、各ユニットに伝達講習を行い理解を深めている	身体拘束・虐待防止委員会では、年間計画を作成し、「なぜ虐待してしまうのか」などの勉強会をすることになっている。「これって虐待？」のテキストを用いた研修の後、理解度テストを実施した。勉強会で得たことが、実践に活かされるよう期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の委員会を設けており、月一度集まり勉強会を行い、各ユニットに伝達講習を講習を行い理解を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会や勉強会を通して制度の理解に努めている。利用者様の必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行っている。不安な点や、疑問の点などある時はその都度納得していただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やケアプランの説明時、行事に参加していただいた際など、その都度機会を設けご家族様に話を聞かせて頂いている。その内容を反映する為各会議で話し合い今後の運営につなげている	「髪を切って」や「誕生日に、これを着せて」などに対し、要望に合わせた対応をしている。編み物が好きだったことを聞き、アクティビティに取り入れた。家族自身の健康不安などを聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設けており、委員会開催時に参加するようにしている。その際出た意見を出来る限り取り入れるように努めている	会議ではケアに関する意見が多い。事故防止や環境整備、行事広報など4つの委員会があり、各部署で出された職員の意見や提案で運営している。要望に合わせて、車いすの移乗や入浴介助などの勉強会をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力に応じ実施できるか、出来ないかを見極め、役割を果たすことが出来るように、ユニット長や管理者間で連絡を密にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OFF-JTの参加機会の提供については、職員の希望を出来る限り反映できるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三栄会のイベントにお手伝い出来る際は参加させていただいている。地域包括センター主催の地域ケア会議や町内会の集会に参加させていただき顔なじみの関係を築けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際、不安な点や疑問な点は遠慮なく話していただき、出来るだけ不安のない状態で入居していただくように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの役割の説明を行い、その上でご家族様の不安や疑問点などを解決できるように話しやすい環境を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の現状や、利用者の方々ご家族様の希望、要望を職員同士で共有し、把握に努め、必要なサービスを提供している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者野方ター一人ひとりと関わりを持ち、その方の思いを知り、その方のできることを一緒に探してお互いに高めあって行けるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換ををこまめに行い、面会や交流の場や機会を使ってご家族様と職員もともに関わりを持ち続けるよう支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく、利用者の方々がこれまで気づいてきた人間関係を大切にしながら支援している	自宅周辺の散歩や馴染みの美容院へ送迎したり、馴染みのデパートに地下鉄で同行するなど、入居前の馴染みを支援している。生活歴を参考にして、朝食のパンや日舞、歌などケアプランに反映し継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフ一人ひとりが利用者の方々とコミュニケーションに努め性格や好き嫌いの把握を行い互いに良い環境で過ごして頂けるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もいつでも相談に乗ることを説明し、相談に来られた際はご家族様にご納得いただけるよう支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様が望まれることを話すことが出来る方はご本人様の得意な事や好きなことを行っていただく。聴取できない方の場合は日常の関わりの中からご本人様の気持ちを汲み取れるようにしている	出掛けるのを嫌がったり、粗暴になったり、外に出ようとするなどが見られた際には、行動の要因を探り、入居者の不安を取り除く対応で落ち着くようになった。家事の得意な入居者に、洗濯物の整理をしてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけこれまでの暮らしを続けられるよう、これまでの習慣や趣味など、ご家族様にも協力していただき把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活での関わりの中で、言動や行動をケース記録に細かく残し他のスタッフも情報の共有に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議やアセスメントの時にスタッフ同士話し合いをして意見の交換を行い、面会時にご家族様にご意向を確認しその時の状態に合わせたものを立案するようにしている	3ヵ月ごとにモニタリングし介護計画書を作成をしている。ユニット内における入居者について、各職員がアセスメントとモニタリングをしている。楽しく生活してもらうことを、事業所として目標設定ポイントにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子、行ったケアを記録に残している。又、口頭での報告や、聞き取りなどで情報の把握に努め会議等で情報を共有するようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様の希望や本人様の状態などから必要なサービスを策定し、提供できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑などに囲まれており、散歩の際に見学したり、近隣の保育園や、小学校、町内会の行事などに参加できるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様にその都度ご相談を行いながら、希望されている医療機関に受診できるよう支援している	「便通は薬だけに頼らず」など医師の助言を、「受診報告書」に記録し共有している。訪問歯科による定期健診を全員が受けている。意識や呼吸などに変化が見られた際は、管理者が対応を指示する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気が付いた事等あった場合看護師に相談しながらベストなケアにつなげるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後もご家族様や、医療機関とこまめに連絡を取り情報の把握に努め早期退院出来るよう連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについてお話し、状況の変化に合わせてその都度変更できることをご家族様に話させていただいている。ご本人様やご家族様が望まれているような最後が迎えることができるように支援させていただいている	家族の意向に沿って看取りを行っている。職員は「ターミナル期を支えるケアの実際」をテーマに研修し、「こんな時はこんな工夫を」「自宅ではない在宅」「主役は誰か」など学んでいる。看取り後の感想に、「生きることを支えるチームだと思う」と述べていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置や初期対応については、看護師に相談し指導していただきながら全員が共有できるようにしている。急変時は管理者やユニット長に連絡を取れるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練や火災訓練を行い、入居者様に参加していただいている。地域の方々にも協力をお願いし参加していただいている	消防署員から「何のための行動かを考えて」などの講話があった。年に1回、地域住民が参加し、避難後の見守りをしている。職員によって訓練への認識が異なると感じており、今後の取り組み課題と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居している方々はもちろん年上の方々に、多くの経験をされてきている方々であるため、言葉遣いや接し方に失礼のないように支援している	一人ひとりの性格や周辺症状を理解し、その人に合わせたケアをしている。得意なことを生活に活かして、やり甲斐を感じてもらっている。「ありがとう」の声掛けを統一し、ケアの信念にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場面、場面で声をかけ、その方の意思を確認しながら支援している。意思を表出することが難しい場合はどのように問いかければ自分の意見を出すことができるのか考えながら行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活習慣やペースに配慮しながら、一人ひとりが自分が思うように生活できるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着るものを出来るだけ選んでいただけよう支援している。又、希望に合わせて美容室にも行っていただくように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々が得意な場面を活かすことができるように考えながら、米ときや調理の下ごしらえ、メニューの作成等行っていただくようにしている	各ユニット毎に職員が献立作成をしている。法人栄養士に栄養バランスなどについて「問題ない」との助言をもらっている。医師の指示や嗜好に合わせて代替食品の工夫がある。旬物や行事食、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の方々一人ひとりに合わせた調理方法や食事形態にして提供している。水分摂取量が少ない方に関しては少しずつでも飲んでいただけるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の方々に合わせ、自分でできる方、声かけが必要な方、動作全体に介助が必要な方等とわけその方に合わせた方法で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表から確認し、パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。下剤の内服をされた方に関しては通常の誘導以外にも様子を伺いつつ必要に応じて声がけをさせていただいている	失敗した時は周囲に気付かれないように誘導したり、汚れたものは速やかに片づけるなど自尊心に配慮している。ズボンを下げるなど自分で出来ることはしてもらう。リハパンが汚れなくなったので、布パンツにした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては、牛乳を提供したり、トイレの際に腹部マッサージを行ってみたり、体を動かす機会を提供させていただくことで排便を促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それまでの生活習慣や希望に合わせて入浴の声がけを行っている。気持ちよく入浴していただけるように湯船の温度や、脱衣所の室温等設定している	週に2～3回入浴している。「今入りたい」や「熱めの湯」「肩まで入りたい」など、それぞれの希望に合わせている。ユニットによって電気ストーブやFF式ストーブなどの暖房は、職員が選択している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の方々の状態や体調に合わせて居室にて休んでいただいている。疲労が見られるときは居室にて1時間ほど休んでいただき、夜間帯に響かないようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は、確認し内服の間違いが無いように努めている。処方の変更改があれば申し送り簿に記入し、職員全員が把握できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々がやりたいことを行っていたり、好きなよう好みや把握し、好みに応じた楽しみごとや気分転換に繋がるような事を提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物へとお誘いしたり外気浴にもお誘いしている。職員だけでは対応が難しい場合でもご家族様に協力を仰ぎながら出来るだけ利用者の方々が希望されるようお出かけしていただいている	行事計画の花見や七夕、紅葉狩りは全員で出掛けている。買い物や外食は、希望者を募って少人数で出掛ける。歩行が不自由な人は、車窓から景色を楽しむなど、戸外へ出る人に偏りが無いように配慮している。必要に応じて医師の助言をもらう人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し管理できる方にはご本人様にも管理していただいている。お金を預かっている方に対しても買い物などの際に財布を持っていただくなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の方々の希望がある場合は、電話の使用、取次ぎ等支援している。耳が遠い方に関してはスタッフが代行したり、お手紙を書くといった支援をさせていただいている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節感がわかるように飾りつけをしている。又、玄関先には植物をおき外気浴などの際には楽しんでいただいている	吉番館に向かい合って、弐番館と参番館が棟続きになっている。2つの棟に挟まれた駐車場では、敬老会や夏祭りを楽しんでいる。屋内に入るとホール天井は高く、天窗が室内を明るくしている。色画用紙で作ったハロウィンや紅葉が壁を賑やかにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルから少し離れたところにソファを設置しテレビをみたり、休んだり思い思いに過ごせるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを置いていただいたりレクなどで作成した習字や、ぬりえ、写真などを飾り居心地の良い空間を提供している	筆筒とベッド、エアコンはホームの備え付けである。明るい花柄のクロスを掛けたテーブルや壁に貼った100点の計算プリントが、その入居者らしさを思わせる。夜間は小まめに巡回し、物音などに注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力を見極め、安全に配慮しながら環境整備を行い、できること、今まで行ってきたであろうことを続けることが出来る様支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	医療法人 仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢 ユニット名 参番館		
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	令和 1 年 9 月 30 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 1 年 10 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日楽しく生活できるように入居者の方それぞれの好みを把握できるよう日頃から本人の思いを引き出せるような関わりを持つように心がけております。TVやチラシなどを観ながら話をすることで、好みの場所や食べ物を把握しスタッフ間で情報を共有している。誕生日の外出、夕食の際にはその方の好みの場所へ出来るだけ行くことが出来るよう支援している。また、個別の外出以外にも花見、七夕、モミジ狩り等ユニット全体で季節に合わせた外出も予定している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

仙台地下鉄富沢駅から南西に徒歩12分程の所に「やすらぎホーム富沢」がある。ホーム南の道を隔てて運営本体である仙台富沢病院がある。すぐ向かいには、餅つきや納涼会に招待されて交流する保育園がある。ホームの夏祭りには、町内会から TENT を借りたり、社会福祉協議会を通じてボランティアの協力がある。その折りは入居者、家族とともに、近隣住民を焼きそばなどの屋台や演芸でもてなした。職員は「認知症である前に私たちの大先輩である」ことを意識し、「ありがとう」の言葉と心で笑顔のケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を元に、なぜ地域とのつながりが必要なのかを考え地域との連携を実践している。	ホーム理念に「家庭的」や「自分らしさ」など4項目を掲げ、どんなケアをすべきか考える基としている。ユニット目標には、「日々発見」や「一歩下がって見る」などがある。「入居者優先に関わる」など、各職員の目標もある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはできるだけ参加するようにし、入居者の方々と地域の方々が顔を合わせる機会を作るようにしている。以前に比べるとより良い交流ができていて感じている。	ホームの夏祭りに町内会からテントを借りたり、地区で開催されるサロンに入居者と参加するなど、出来るだけ交流の機会を持つよう努力している。社会科学習で来訪した小学生に対応した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所で発行している広報紙にはホームでの生活がどのような様子なのかを記載している。そのほか運営推進会議にて報告相談など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で地域や他事業所と話し合い入居者の方々が参加できるような行事を紹介してもらったり、他職種から見てのサービス向上のための話し合いを行っている	年1回、メンバーからホームの良い点、悪い点を聴取している。意見は、アクティビティを工夫できないかを考えたり、ホーム内の整頓や出来るだけ散歩に出る、暗い照明を順次明るくするなど、実践へのきっかけとなった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か困ったことがあった場合は仙台市に連絡しどのように対応すればよいのか相談するようにしている。	地域ケア会議に参加し、ホームを紹介した。依頼を受けて、他地区の町内会組織立ち上げのメンバーになった。災害発生時にFAXで避難指示があった。感染症や権利擁護などの研修会に参加した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置している。そして管理者だけが知識を提供するだけではなく、各職員が自分たちで考え「なぜ行ってはいけないのか」というところで勉強会を行い知識の共有に努めている。	身体拘束・虐待防止委員会では、年間計画を作成し、「なぜ虐待してしまうのか」などの勉強会をすることになっている。「これって虐待？」のテキストを用いた研修の後、理解度テストを実施した。勉強会で得たことが、実践に活かされるよう期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会も設けており、身体拘束と同様にどのような行為が虐待につながるのかを委員がまず勉強しその後職員に周知するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている入居者の方々もおり、必要に応じて他の方々にも制度の利用をお話させていただいている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を交わすときはしっかりご説明させていただき、不明な点などはその場でお聞きするようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にこられた時に積極的にお声をかけることでご家族様からのご意見やご要望なども聞き取るようにしている。上がったご意見は主任者会議などで検討し反映させていただいている	「髪を切って」や「誕生日に、これを着せて」などに対し、要望に合わせた対応をしている。編み物が好きだったことを聞き、アクティビティに取り入れた。家族自身の健康不安などを聞くこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などの場で職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員と管理者の間で気軽に意見を言える関係を作っているためその都度話すようにしている	会議ではケアに関する意見が多い。事故防止や環境整備、行事広報など4つの委員会があり、各部署で出された職員の意見や提案で運営している。要望に合わせて、車いすの移乗や入浴介助などの勉強会をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回人事考課を行い、職員一人ひとりの評価につなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人ないの研修会が有りそれには積極的に参加するようにしている。またホーム内でも勉強会を行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会をとうして知り合った同業者と情報交換を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入居された方々が困らないように事前にご家族様などから聴取し対応している。また入居されてからもご本人とお話させていただき不安を取り除き笑顔で暮らしていただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの段階からご家族様やご本人様が困っていることを聴取し、入居される時に安心していただけるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人様にはグループホームの入居という選択肢だけではなく、状況に合わせてサービスの活用も勧めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々が出来ることを最大限発揮できるよう各職員努めている。各職員にも一方的に提供することは良いことではないことを周知し、出来る限り入居者の方々に達成感を感じていただけるよう支援している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況にもよるがご家族様が来所しやすい環境をつくり、入居者の方々ご家族様が笑顔で過ごすことができるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の方々がそれまで気づいてきた関係をご本人様やご家族様から聴取し、関係が途切れないようにご家族様と協力して支援に努めている	自宅周辺の散歩や馴染みの美容院へ送迎したり、馴染みのデパートに地下鉄で同行するなど、入居前の馴染みを支援している。生活歴を参考にして、朝食のパンや日舞、歌などケアプランに反映し継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者どうし居室を行き来できるように支援している。また、ひとりを好まれるような時もそのままにするのではなく職員が間に入り関係性が保てるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談にこられるご家族様もおりその都度対応させていただいている。そしてご家族様が納得していただけるように支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメントを行う際に日常生活の中での会話の中からご本人様が実際に何を望まれているのか聴取したり、言動や表情から本人の気持ちを汲み取るようにしている	出掛けるのを嫌がったり、粗暴になったり、外に出ようとするなどが見られた際には、行動の要因を探り、入居者の不安を取り除く対応で落ち着くようになった。家事の得意な入居者に、洗濯物の整理をしてもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、入居時、日常生活の会話の中でご家族様や本人に生活歴や、馴染みのあるものなどを伺い新しい発見があった時はスタッフで情報を共有できるようにしている。また出来ることできないことの見極めをおこない、出来ることを全員が把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様やご家族様にお話を伺ったり、日常生活の中での会話や些細な言動や表情の変化に気づくことができた場合は、その都度本人様の気持ちを汲み取り更新している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や人事のカンファレンスで職員同士で話し合い意見交換をしている。また、ご家族様からのアドバイスも含め計画に反映できるようにしている	3ヵ月ごとにモニタリングし介護計画書を作成をしている。ユニット内における入居者について、各職員がアセスメントとモニタリングをしている。楽しく生活してもらうことを、事業所として目標設定ポイントにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には細かい変化でも見逃さず記入し、口頭でもスタッフ全員に申し送りが伝わるまで行い情報が共有出来る様にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常生活の中でスタッフが業務にとらわれずその日その人の状態を把握し臨機応変に対応できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りや学校行事にも参加させていただき地域の方々とのふれあいを大切にしている。トド元の触れ合いで涙を流されたり、感情や心が豊かになっておられる		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の思いを尊重し、自分で伝えられる方は自分の言葉で状態を伝えていただくようにし補足が必要な場合など介入させていただいている。伝えることが難しい方に対しては代弁させていただいているがご家族様ともご相談させていただきご本人にとって一番良い受診の方向を医療につなげるようにしている	「便通は薬だけに頼らず」など医師の助言を、「受診報告書」に記録し共有している。訪問歯科による定期健診を全員が受けている。意識や呼吸などに変化が見られた際は、管理者が対応を指示する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は昼夜共に関わりを持っているため看護師に状態の変化等申し送りを行うように徹底している。体の状態はもちろん、入居者の方々のADLや精神状態の相談など行いより良いケアに繋がるように連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したことで不安になる方が多いが一日も早く退院し季節できるように関係医療機関ともこまめに連携を取りながら早期退院につなげるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様や主治医、職員が早期からこまめに連絡を取り合っているそして各職員がチームとして動き入居者の方々やご家族様が望まれるような最後を迎えることができるように努めている	家族の意向に沿って看取りを行っている。職員は「ターミナル期を支えるケアの実際」をテーマに研修し、「こんな時はこんな工夫を」「自宅ではない在宅」「主役は誰か」など学んでいる。看取り後の感想に、「生きることを支えるチームだと思う」と述べていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の方々に何かあった場合には管理者に連絡が取れるように体制を整えている。救急車や家族、管理者が来るまで何ができるかを話し訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回日中、夜間想定避難訓練を実施しており入居者様にも参加していただいている。また、消防の肩にも来ていただき直接的な指導をしていただいている。地域の方にもご協力をお願いし参加していただいている	消防署員から「何のための行動かを考えて」などの講話があった。年に1回、地域住民が参加し、避難後の見守りをしている。職員によって訓練への認識が異なると感じており、今後の取り組み課題と考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの身体的精神的状況や性格などに合わせ声かけや対応を行なっている。また、不必要な介入はせず必要な時は利用者様やご家族様に理由を話ご了解を経てから行うようにしている	一人ひとりの性格や周辺症状を理解し、その人に合わせたケアをしている。得意なことを生活に活かして、やり甲斐を感じてもらっている。「ありがとう」の声掛けを統一し、ケアの信念にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や行動などこまめに観察し、少しでも変化があればこちらから声をかけるようにしている。思いや希望をうまく表すことが難しい方に対してはこちらから話題を提供し、更に答えを選択していただくような形で自己決定して頂くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望があれば食事の時間をずらしたり、お茶の時間に居室でお茶を飲んで頂いたり対応している。外出したい方などはなるべくその日に外出できるよう対応を行っており、ひとりひとりのペースを大切に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの衣類などがあればご家族様に持ってきていただいている。また、更衣の際にも本人様と一緒に服を選びその日着たいものを来ていただいている。また誕生日などには好まれる方に対してはマニキュアやアクセサリなどもプレゼントしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段から皆様の好きな食べ物や食べたいものを聴取しメニューに取り入れるようにしている。簡単な下ごしらえや盛りつけなど手伝っていただいたり、職員も同じテーブルと一緒に食事をしている	各ユニット毎に職員が献立作成をしている。法人栄養士に栄養バランスなどについて「問題ない」との助言をもらっている。医師の指示や嗜好に合わせて代替食品の工夫がある。旬物や行事食、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく提供し水分も決められた時間だけではなく状態に合わせて提供し摂取量を確保している。食事あまり召し上がられていない方に対してはお声がけはもちろん、時間をおいてみたり、別なものを提供するなどしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自ら口腔ケアを行うことができる方に対してはお声がけを行ったり見守りのもと行って頂くようにしている。自力では難しい方に対しては介助を行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、各入居者の排泄パターンを掴むようにし、汚染せずに入居者の方々が嫌な思いをしないで済むようにお手伝いさせていただいている。また、状態に合わせて布パンツなども検討するようにしている	失敗した時は周囲に気付かれないように誘導したり、汚れたものは速やかに片づけるなど自尊心に配慮している。ズボンを下げるなど自分で出来ることはしてもらう。リハパンが汚れなくなったので、布パンツにした。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を理解できるように職員へはが看護師から説明していただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は入りたい時に入浴していただけるようにお声がけし、気持ちよく入浴していただけるように湯船の温度や脱衣所の室温など設定している。	週に2～3回入浴している。「今入りたい」や「熱めの湯」「肩まで入りたい」など、それぞれの希望に合わせている。ユニットによって電気ストーブやFF式ストーブなどの暖房は、職員が選択している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態や体調に合わせて居室にて休んでいただく。いえで過ごしている時と同じようにそのひとに応じて居室の環境を整え安心して休んでいただけるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ひとりひとり受信報告書や処置板を確認しスタッフ間で申し送りをしっかり行い薬について理解し変化や状態についてスタッフ同士確認する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方々がやりたいことを行えるように、好みを把握し、好みに応じた楽しみごとや気分転換に繋がるようなことを提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に買い物や、映画や外食など希望に沿って外出できるように支援している。また季節によって行事を計画しお花見や七夕に外出したりしている	行事計画の花見や七夕、紅葉狩りは全員で出掛けている。買い物や外食は、希望者を募って少人数で出掛ける。歩行が不自由な人は、車窓から景色を楽しむなど、戸外へ出る人に偏りがないように配慮している。必要に応じて医師の助言をもらう人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフ付き添いで買い物や外出に行かれた際に一緒にお金を払っていただいたりしている。また、ご自分でお金の管理を行っているかたはご本人様に支払いをお願いすることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方々がのご希望に合わせて電話や手紙のやり取りの支援を行なっている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には外出時やホームでの生活の様子を写した写真を飾ったり、入居者の方々の手作りの作品などの飾るようにしている。窓も大きく多いため自然光も入り、窓を明外の景色を見るなどもしている。	吉番館に向かい合って、弐番館と参番館が棟続きになっている。2つの棟に挟まれた駐車場では、敬老会や夏祭りを楽しんでいる。屋内に入るとホールの天井は高く、天窗が室内を明るくしている。色画用紙で作ったハロウィンや紅葉が壁を賑やかにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席だけではなく、ソファ席や小上がりなどにも自由に座っていただいている。またテレビの見やすい位置に自由に移動し思い思いのままに過ごせるように支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は入居者様やご家族様が面会に来ていただいた時に過ごしやすい空間を作っていただくようにしている。また、居室に馴染みのものが少ない方に関しては、写真などを飾り生活館を出ず工夫をしている	箆笥とベッド、エアコンはホームの備え付けである。明るい花柄のクロスを掛けたテーブルや壁に貼った100点の計算プリントが、その入居者らしさを思わせる。夜間は小まめに巡回し、物音などに注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームの中には出来るだけものを隠すのではなく使いたい時に使っていただけるようにわかるようにしている。		